

通級指導学級におけるソーシャルナラティブによる介入の効果

The Effects of Interventions Using Social Narrative for Children in Special Need Education Class

宮地 敏子 (Toshiko Miyachi) 指導：佐々木 和義

1 問題と目的

発達障がい児の抱える対人関係や社会行動面の問題に早期に対応し、不登校やひきこもりなどの深刻な問題が起ることを未然に防止する方法として多くの社会的スキル訓練 (SST) が研究されてきた。その中で一貫して指摘されてきたのは、社会的スキル訓練によって獲得させたスキルを、訓練以外の場面に充分般化できないことである (今井・中野, 2002)。

自閉症スペクトラム障がい者を主とする発達障がいの子どもたちに、社会的な場面を理解するための手がかりや、適切な行動の仕方などを記述したストーリーを使って、ソーシャルスキルの獲得を支援する方法がある (Gray, 2006)。本研究では、藤野・米山 (2008) に従い、この教育技法をソーシャルナラティブと称する。子どもの課題に合わせて作成した短いストーリーを大人が読み聞かせる、または子どもに読ませるといった簡便な方法は訓練場面だけでなく、家庭や学校においても実施しやすいという点で有効な方法であると考えられる。

通級指導学級は、児童への直接の指導のみならず、日常場面に関わる保護者や学級担任とも連携し、通級児童への対応を改善する間接的な支援が重要な役割であるとされている (小池, 2006)。本研究では通級指導学級のこうした役割と、ソーシャルナラティブの指導の簡便さを活かし、通級指導学級内でソーシャルナラティブを用いたSSTを行い、さらに、在籍学級や保護者に実施したSSTを知らせ、介入や協力を依頼することで、通級指導学級に通う児童のソーシャルスキルの獲得が促進されるかを検討する。

2 方法

A市立小学校通級指導学級に通う2名の児童を介入の対象とした。

個別指導で各児童の課題とする行動に対応して書かれたストーリーを通級指導学級教諭が読み聞かせ、その後、児童に音読させた。小集団学習において個別指導で扱ったストーリーと同じソーシャルスキルの獲得をねらいとしたSSTを行った。家庭でストーリーを復習するホームワークを依頼し、在籍学級担任にもストーリーを知らせた。保護者と在籍学級担任には、生活の中でストーリーの内容と類似した場面があった場合にストーリーの内容に沿った声かけを対象児にするように依頼した。評価は介入前後に通級

指導学級教諭および在籍学級担任が各対象児に対する評価を、LD児用ソーシャルスキル尺度 (名越・土野, 1995) を用いて行い、ソーシャルスキルの変容を評価した。また、対象児の個別の問題毎に実施したソーシャルナラティブの効果を検討するため、通級指導学級教諭、在籍学級担任、保護者において介入後に対象児の日常行動についての質問紙を実施した。また、介入後に介入の効用感に関する記述式のアンケートを行った。また、対象児本人にもインタビュー形式で学習の効用感や感想を求めた。

3 結果と考察

対象児の課題とする行動の改善度のスコア、およびLD児用ソーシャルスキル尺度におけるスコアの変容を見ると、主とする訓練場面である通級指導学級の中では効果が見られた。一方、在籍学級や家庭においては、一貫した効果は見られなかった。しかし、「自分のしたい遊びがある時に、友だちの誘いを上手に断ることができるようになった」「自分の希望通りでなくても、多数決の意見に従うことができた。」「ストーリーの内容と類似した場面で『叩かないで○○と気持ちを伝えてみたら?』と対象児に声をかけると上手く友だちに気持ちを伝えることができた」といった報告があり、通級指導学級、在籍学級、家庭それぞれの場でソーシャルナラティブの介入による児童の行動の変容が見られた。また、対象児本人へのインタビューでは2名の児童共に学習は楽しかったと答え、その理由としてストーリーによっていろいろなことを学べたからと答えたことから、児童自身も介入の効用感を感じていたと考えられる。

在籍学級担任および保護者に対して行った介入の効用感に関するアンケートには「短期間で効果が表れるものではなく、ずっと続けていくことで児童の変化が見えてくるように思う」、「少しずつ効果が見られるので、引き続きこれまでのストーリーを振り返りながら、違うストーリーも勉強していきたい」のように継続して指導を行うことで効果が出るのではないかという意見が多くあった。これは、ソーシャルナラティブによる介入は、長期的に行うことで訓練場面以外での児童の課題とする行動の改善やソーシャルスキルの習得に寄与する可能性があることを示唆していると考えられる。ソーシャルナラティブによる介入の効果を明らかにするためには、より長期間に渡った介入の効果を検討する必要があると考えられる。